

令和元年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	<p>①現行の教育課程の改善を図り、新教育課程編成を進める。</p> <p>②本校のミッションと生徒・保護者のニーズを基に、魅力と特色ある学校づくりの推進を図る。</p> <p>③組織的な授業研究を進め、主体的学習習慣を育成する。</p>	<p>①生徒の実態や学校の実情に対応した新学習指導要領の検討をさらに進める。</p> <p>②生徒の主体性や課題解決能力を育むための授業研究や資格検定の受験奨励を進める。</p> <p>③インクルーシブ教育の実践を見据え、ユニバーサルデザイン、学校設定科目、評価方法等の検討を進め、仕組みや体制を構築する。</p>	<p>①学校教育目標を踏まえ、新学習指導要領に対応した教育課程編成の検討を早々に始める。</p> <p>②技能審査成果の単位認定化を保護者・生徒に周知し、資格・検定試験を奨励する。</p> <p>③パイロット校の取組状況を踏まえ、学校設定科目、評価方法等の検討を行う。</p> <p>・関連する職員研修を年間5回以上実施するとともに、校内体制を整備する。</p>	<p>①新学習指導要領に対応した教育課程の編成が進められたか。</p> <p>②資格・検定試験の受験者が増加したか。</p> <p>③学校設定科目、評価方法等を定めることができたか。ユニバーサルデザインや個別指導計画等について理解を深めることができたか。</p>	<p>①新教育課程の編成に着手を始めた。</p> <p>②技能審査の単位認定化を始め、資格・検定試験の受験者の増加にはつながらなかった。</p> <p>③学校設定科目として「自己と社会」を定めた。ユニバーサルデザインと個別教育計画に係る職員研修で78%以上の理解度を得られた。</p>	<p>①インクルーシブ教育推進につながる教育課程を編成する。</p> <p>②資格・検定試験は組織的に行う体制を構築する必要がある。</p> <p>③ユニバーサルデザインと、個別教育計画については、継続的に研修を実施する。</p>	<p>・チャレンジする生徒育成が大切。</p> <p>・検定試験は学校のミッションに基づき重点化により増加を期待。</p> <p>・インクルーシブ教育実践推進に期待、人間力を生かせる機会にしてほしい</p> <p>・変化する社会に対応する力の育成を期待する。</p>	<p>①新学習指導要領に対応した教育課程編成の方針の策定に着手した。</p> <p>①令和3年度より生徒に端末を購入させ積極的に活用していくことを決定した。</p> <p>③インクルーシブ教育に係る研修や情報収集は充実して進化した。</p>	<p>①新教育課程編成スケジュールの確認</p> <p>①端末の選択、業者選定、周知方法等一層の検討と決定が必要である。</p> <p>③インクルーシブ教育推進は、情報収集と、事例提示により、指導の実際のイメージを掴む。</p>
2	<p>①生徒の自主的運営能力を向上させ、生徒主体の自立的活動を促し、自ら課題解決にチャレンジしていく積極的な態度の育成を図る。</p> <p>②基本的生活習慣を確立し、自己管理能力、自律的行動規範の獲得を促し、モラルの向上やルール遵守の精神を養う。</p> <p>③丁寧できめ細かな生徒支援体制を構築する。</p>	<p>①部活加入率の向上や部活動の活性化を図るとともに、生徒の主体的な活動、活躍の場を拡充することによって生徒の自立的活動力、チャレンジ精神を育成する。</p> <p>②組織的な生徒指導を行い、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成を図る。</p> <p>③生徒一人ひとりを大切にしたい組織的な支援体制を確立させるとともに、生徒がみんなで支え合うインクルーシブな意識を育てていく。</p>	<p>①新入生に対して一斉体験入部を設ける。各行事で生徒が主体的に活動できる場をサポートし、新たな試みを推奨する。</p> <p>②遅刻、服装・頭髪の指導を徹底する。</p> <p>・バスや自転車乗車マナーに係る指導を引き続き行う。</p> <p>③よりきめ細かい個別面談やSCとの面談、ケース会議等、生徒一人ひとりに対応した支援体制を充実させ、教育相談体制を定着させる。</p> <p>・インクルーシブな意識を育てるにあたり、生徒を対象とした講演会を年間2回以上実施するとともに、係るグループと連携を深める中で、他者理解、共生に向けた学習内容をカリキュラム化する。</p>	<p>①部活動加入率65%以上を目標にする。各行事での生徒アンケートで満足度が80%を越えるように工夫する。</p> <p>②遅刻、頭髪服装の指導を行い改善が図れたか。公共心が育ち、乗車マナーや自転車通学のマナーの向上が見られたか。</p> <p>面談、SCの活用、ケース会議など効果的な支援を実施できたか。</p> <p>③講演会を通して、生徒の意識に変化はあったか。</p> <p>組織的な支援体制が確立できたか。</p>	<p>①加入率は61%、前年度比2%上昇、体育祭は77.8%目標値を下回った。</p> <p>②生活習慣の改善は頭髪指導、乗車マナー指導で効果的であった。支援体制はSCとの連携、ケース会議など効果的な支援を実施できた。</p> <p>③5月と7月に講演会を実施し、相互理解と助け合いの大切さを理解した</p> <p>校内環境のユニバーサルデザインをテーマに、ピクトグラム</p>	<p>①HPの活用、充実、行事の反省により目標値を達成する。</p> <p>②引き続ききめ細かく指導方法を検討する。</p> <p>支援の必要な生徒には家庭、SCとの連携、ケース会議等で充実させる。</p> <p>③生徒のキャリアマネジメントを高め、他者理解・共生に向けた具体的な活動を推進する。</p>	<p>・小中学生への部活動サポートもよくしてもらっている。</p> <p>・生徒指導は「ダメ」「禁止」のみでなくプラスの側面をとらえての指導が必要。</p> <p>・自転車の乗車マナー指導については、高齢化する若葉台・霧が丘地区にとって切実である。</p> <p>・路上指導等継続して行ってほしい</p>	<p>・部活動加入率に関しては一斉体験入部に一定の効果があった。</p> <p>・継続的な遅刻指導・頭髪指導は一定の成果があった。</p> <p>・部活動について「勝利至上主義」のみでなく生徒の人間的な成長とキャリアマネジメントの視点が必要である。</p> <p>・自転車やバス乗車マナーは一層の対策と指導が必要</p>	<p>・部活動の実績についての広報活動の充実と部活動間で切磋琢磨する校風とする。</p> <p>・生徒指導の方針の共通認識を高め協議を重ねていく。</p> <p>・自転車通学区のハザードマップを作成し、年間を通じて定期的に教員がマナー指導を行うことが重要である。</p>

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月31日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	①自己発見の機会を与え、自己の将来にも向き合いながら自己実現を目指すキャリア教育の充実を図る。 ②進路希望の実現に向けて進路選択能力の涵養と学力向上を図る指導を充実させる。	①生徒が自ら課題を発見し解決する過程を重視した総合的な探究の時間の研究を進めるとともに、全教師が一体となって組織的に指導する体制を構築する。 ②生徒の勤労観や職業観の育成をめざし、インターンシップ活動や分野別説明会を充実させる。	①課題の探究活動や各種のガイダンス、進路選択のための活動を通して振り返りを行い、ポートフォリオの記録を徹底する指導をする。 ・キャリア支援Gと各学年が連携し、探究活動のサポート体制の構築を図る。 ②3年間を見据えて、生徒の発達段階に応じた適切なキャリアプログラムを実施する。	①・年度末に活動の記録が各自残せているか。 ・キャリア支援Gとともに全教職員が探究活動に関わり、生徒の活動をサポートできたか。 ②生徒のニーズに合ったプログラムを実施できたか。 ・参加した生徒の満足度が高かったか。	①探究や学習の記録をファイルに保管、ポートフォリオの記録を徹底した。 ・探究活動のテーマごとに生徒のサポートできた。 ②自己のキャリアの考察、社会人としての教養講座、小論文の講座が充実した。	①eポートフォリオのデータに移行する指導を検討する。 ・一層のグループと学年とで連携を図る。 ②アンケートの結果から、適切なカリキュラムを実施する。	・計画的なキャリア支援プログラムや卒業生の力を借りた進路支援を実施してほしい。 ・推薦入試の面接、論文指導、一般受験生の計画的・系統的指導が必要。	・進路指導・キャリア支援教育は3年間を見通した計画を立てている。しっかりと振り返りをさせて記録させたい。 ・現在行っている実力テストの実施について見直しを図る必要がある。	・指導計画の検証と見直し ・実力テストは本校の生徒の実態に対応した外部テストの検討、外部の模擬テストを一般受験希望の生徒全員に受験させる等を検討する。
4	地域等との協働	①地域社会の理解を得るため、本校の教育活動に係る積極的な情報発信を行う。 地域貢献・連携・協働を通し社会参画意識の向上を図る。	①本校の教育活動を効果的に外部発信するために学校説明会やホームページの充実化をさらに図りながら広報活動を推進する。 ②地域との連携・協働の場を拡充し、生徒の社会と関わる力をさらに伸長する。	①学校説明会で体験授業を実施する。霧コンシェルジュ(学校説明会サポート)を育成し外部発信を充実させる。 ・新HP作成に係る研修を実施しHP作成を協働する。 ②部活動・ボランティア活動を中心に地域と関わる機会を提供する。 ・地域の特別支援学校や就労支援施設等と連携し、インクルーシブ教育に関する啓発や進路実現に向けた協力体制を整備する。	①来校者アンケートで肯定的評価が7割を超えたか。 ・更新は随時行われ、内容は的確なものだったか。 ②地域との活動に参加した部やボランティアの件数・団体数が増えたか。 ・地域との連携を深め生徒が活躍できる場を拡大することができたか。	①学校説明会アンケート97%が肯定的評価であった。 ②インクルーシブ教育に係る職員研修は90%以上の職員が「よく理解できた」との結果を得た。 ・ボランティアは8名の参加、地域の行事等に多くの部活動が参加した。	①時期や時間の設定や、開催回数について精査したい。 ・ホームページ更新依頼の周知を徹底する。 ②特別支援学校と連携して就労支援施設等と連携を深めたい。	・霧コンシェルジュの取組は高い評価である。 ・地域の就労支援施設に生徒の目を向けさせることを重要。 ・地域交流や地域貢献等を通じて霧が丘の良さを追求させたい。	・霧コンシェルジュの活動の一層の充実。 ・地域の特別支援学校への研修講師の依頼により連携の契機となった。 ・地域と連携した行事を通じてチューリップ祭りの他、地域貢献ができないか等探る必要がある。	・コンシェルジュの主體的、自発的活動の支援。 ・特別支援学校と連携し、進路支援・学習支援の態勢作りに生かす。 ・地域や小中と連携しイベントを企画し地域貢献を果たす。
5	学校管理 学校運営	①事故・不祥事防止に努め、安全安心な信頼される学校づくりを進める。 ②防災教育・防災訓練を通じて、教職員や生徒の防災意識を高めながら、学校全体で組織的・計画的に災害対策対応力の強化を図る。 ③校内美化、環境整備を進める。	①職員一人ひとりの事故・不祥事防止に対する意識をさらに高めるとともに、信頼される学校づくりに向けガバナンスを高めるための仕組みを構築する。 ②地域と連携した防災教育・防災訓練等を通じ、教職員や生徒の「自助共助公助」の防災意識をさらに高める。 ③インクルーシブ教育の充実に向けて、校内の施設について充実させる。	①課題解決に向けた効果的な事故防止会議を運営する。 ②防災体制を詳細に構築し、実践的な訓練を行う。生徒対象のDIG研修を実施し、防災・安全意識を高める。 ③予算を有効活用し、校内の施設設備を適正に配置する。点検を充実させ、安全性や機能性を高める。日頃から校内美化を推進する。	①年間を通して、具体的に効果的な事故防止会議が実施できたか。 ②職員の防災意識を高める職員研修を実施できたか。 生徒対象のDIG研修を実施したか。 ③インクルーシブな教育に必要な施設や設備を整えることができたか。校内美化について、生徒が主体的に取り組む仕組みづくりができたか。	①毎月事故防止会議を開催し、職員の意識啓発を図る。 ②実践に則した防災体制を構築し、役割を確認した。また、DIG研修で、帰宅経路を保護者が確認し防災意識を高めた。 ③インクルーシブ教育の実践に向け、リソースルーム及び1学年の教室の改修工事を実施し、必要物品の整備を行った。	①事故防止会議の定期的開催。 ②防災体制について意識向上のため、より効果的な生徒向けの研修を検討。 ③美化委員会で、チャレンジさせるイベントを取り入れる。 インクルーシブ教育の実践に向けて、一層の環境整備を行う。	・サービス関係の事故防止については学校全体で組織的に取り組んでほしい。 ・大地震に対する防災教育は引き続き行ってほしい。	・DIG研修は家庭を含めた防災意識向上となった。 ・災害時、安全確保と地域の避難者への対応を講じておく必要がある。 ・災害備蓄倉庫の設置場所に課題。 ・教職員の「働き方改革」に向け、月45時間、年間360時間の残業の上限達成を推進した。	・行政機関と防災について意見交換が必要。 ・防災マニュアルの再確認と災害時の対応を職員間で共有。 ・防災備蓄倉庫の設置場所の変更等の検討を進める。 ・夏と冬の休業期間に学校閉庁日を設定し休暇の取得を促す。

